

愛宕山すがしきみどりに彩られた今日の佳き日に、京都府議会議員小原舞様、舞鶴市教育委員会指導理事 山下博伸様をはじめ、多数の皆様の御臨席を賜り、令和7年度京都府立西舞鶴高等学校入学式を、かくも盛大に挙げていただきますこと、高壇からではございますが、厚く御礼を申し上げます。

さて、ただ今、入学を許可しました199名の新入生の皆さん、入学おめでとう。皆さんは、たった今、西舞鶴高校生、西高生として記念すべき第一歩を踏み出しました。自分で選び、判断し、切り拓く人生がここから始まります。教職員を代表して、心から祝福し、歓迎します。

皆さんの青春の舞台となる西舞鶴高校は、前身となる加佐郡立高等女学校創立から数えること118年、旧制舞鶴中学校の流れをくむ学校です。単に歴史があるだけでなく、創立以来、3万5千人を超える皆さんの先輩方が築いてこられた立派な伝統のある学校です。国の内外を問わず各分野の第一線で活躍しておられる先輩方は、「努力の西高」、文武両道の校風を受け継いでこられました。

現在は、学校前の看板にもありますよう、「夢をかなえる場所がここにある」とスローガンを掲げて学業・部活動などに打ち込み、その活躍には地域の方からも大きな期待が寄せられているところです。新入生の皆さんが、自らの「夢への挑戦」を通して、西舞鶴高校の新たな歴史の主人公となってくれることを心から願っております。

さて、今日から西高生として生活を始める皆さんには、これからの3年間で、しっかり学んでほしいと思っております。ここでお伝えする「学び」とは、各教科の授業での勉強だけではなく、部活動や学校行事、地域の方との交流やボランティア、個人の趣味など幅広いものです。

各教科の学習において、知識を増やすことは大切ではありますが、それ以上に大事にしてほしいのは、学ぶ姿勢や学び方を模索すること、学びを通して自己理解を深めることです。自分に合った学習方法を探す、自分の興味関心がどこにあるかを知る、自分の将来を考えることが大切です。また、異なる分野での学びを混ぜ合わせることで、新しい価値観を創造することが可能になります。そのためにも、主体的な学習者であってほしいと思います。

また、部活動や学校行事、地域の方との交流の役割は思い出を作るだけではありません。目標を達成するために粘り強く取り組む、一人では成し遂げられないことを集団で成し遂げる、集団の中で周囲に配慮ある行動や発言ができる、異なる年齢の人と新しい人間関係を作るといったことを積み上げてください。多様な経験が、非認知能力、つまり、目には見えにくく、数値化するの難しいがとても大切な力を育ててくれます。

次に、失敗からの学びについてお話をします。失敗のない人生は挑戦のない人生です。物事が順調に進んでいるとき、もしかして挑戦せずに無難な方を選んでいるのではないかと考えることが大切です。欲張って、果敢に挑戦し、失敗をしたとしてもそこから学ばばいいのです。高い目標を目指して失敗することよりも、簡単な目標を目指して簡単にクリアしてしまうことの方が危険なことなのです。皆さんも、挑戦と呼べるものに向き合ってください。

もうひとつ、今日から西高生として生活を始める皆さんに、偉大な先輩の話を送りたいと思います。この体育館の前には、ある棒高跳びの選手の像があります。像のモデルは、大江季雄さんです。大江選手は、本校の前身である旧制舞鶴中学校そして慶應義塾大学を卒業され、1936年に開催された第11回ベルリン・オリンピックの棒高跳び競

技に出場し、見事、決勝に残られました。七時間にわたる激闘の末、アメリカの選手が優勝を確定させ、大江選手と同じ日本代表の西田修平選手で2位・3位を争うことになりました。夜の九時を過ぎ疲労困憊の中、同じ国の者同士で争うべきではないなどの理由で、2人は競技の打ち切りを要請しました。大江選手は公式記録では3位でしたが、3位の西田選手と同じ記録でした。表彰式で、2位の西田選手は、後輩である大江選手のこれからの活躍を願い、そっと大江選手を2位の表彰台に登るように押しやったといいます。オリンピックが終了し帰国した2人は、互いの健闘を讃え合い、銀と銅のメダルを半分に切って繋ぎ合わせました。これが有名な「友情のメダル」です。本校玄関横には、表彰台に立つ大江選手の写真もあります。ぜひとも、見に行ってください。

まさに、大江選手は、本校の校訓である、「真理を求め勉学に努める」という意味の「究理」、「高い理想を抱き、その実現に努める」という意味の「尚志」、そして「人を敬愛し、誠実に生きる」という意味の「敬人」を体現された偉大な先輩の一人です。私たちは、皆さんが、大江季雄選手のように高い理想と真摯な努力により文武両道、文芸両道を成し遂げることがを願っています。

後になりましたが、新入生の保護者の皆様、本日はお子様の御入学、誠におめでとうございます。高校生となられたお子様の姿を御覧になり、感慨もひとしおのことと拝察いたします。本日より、お子様をお預かりし、3年後には立派に成長され卒業の日を迎えられるよう、人間形成と希望進路の実現に向けて、全教職員が全力で情熱を傾けて参ります。保護者の皆様には義務教育とは異なる高等学校の立場を十分御理解いただき、絶えず連携し、御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、公私とも御多用のところ、御臨席いただきました御来賓の皆様、誠にありがとうございました。今後とも、本校教育の更なる発展に向け、御指導、御鞭撻を賜りますことをお願い申し上げます。

結びに、新入生の皆さんが、本日の感動を忘れず、校訓の「究理」、「尚志」、「敬人」をもって、さらなる高みを目指して、充実した高校生活を創り上げてくれること、本日御臨席いただいた全ての方々の御健勝と御多幸を心から祈念し、式辞といたします。

令和7年4月9日
京都府立西舞鶴高等学校
校長 田邊 仁司